

ペンタニック・スケールの覚え方 その1

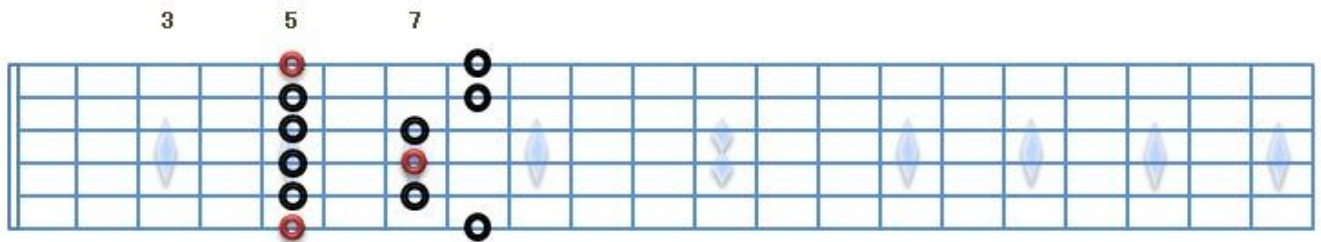
マイナー・ペンタニックの基本ポジション

学理的なセオリーではメジャーから覚えるのが筋かもしれないけど、ブルースやロックではマイナー・ペンタの方が使用頻度が高いと思います。なので、マイナーから憶えたほうが遊びやすいです。

キーはAマイナーで話を進めます。

マイナー・ペンタニックには基本的なブロック・フォームが5個あるんですが、その中の2つを基本中の基本、**マイナー・ペンタの基本ポジション-1、-2**、と呼びます。

マイナー・ペンタニック 基本ポジション-1

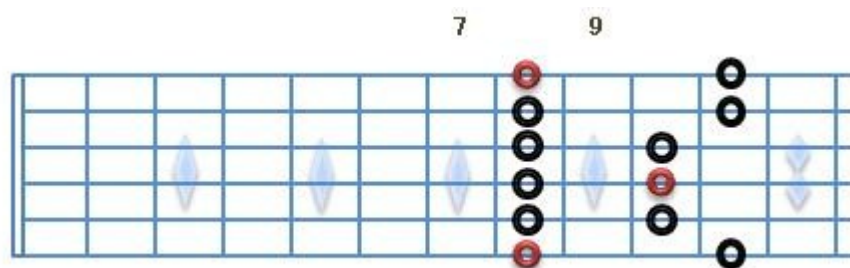


赤丸がルートです。この赤丸の位置の音(6弦5フレットなど)が「A」なので、このダイアグラムは「Aマイナー・ペンタニック」です。

上記のポジションが基本中の基本、一番有名なポジションです。でも冒頭で言ったようにペンタニックにはもう一つ基本ポジションがあります。それが**5弦をルート**に取るポジション。

ギターの指板というのは全ての音が**相似形**に並んでいます。だから、「基本ポジション-1」の形のままフレットをずらしてもキーが変わるだけでペンタニックとしての機能は失われません。

たとえば、、、

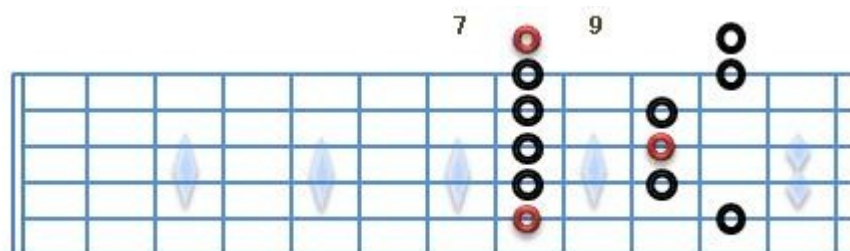


ルートを6弦の5フレットから8フレットに移して「基本ポジション-1」を弾けば「Cマイナー・ペンタ」。

キーがAからCに変わりますが、マイナー・ペンタである事には変わりません。

これは、フレットに対してだけじゃありません。ギターって弦を移しても同じく**相似形**なんです。

例えばルートの位置を6弦じゃなく5弦にズラすと、、、



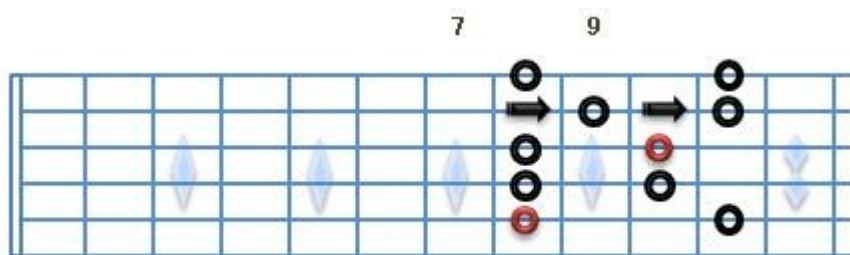
もともと1弦だった部分ははみ出しますが、単純にズラすとこんな具合です。

ただし！！。気を付けなければならないことが1個だけあります。

こちらの方にズラす場合、2弦と3弦の間にあるチューニングのギャップを考慮します。

この2弦と3弦間で半音(1フレット分)ポジションがズれていまいます。

それを考慮すれば、こうなる。



6弦が空白になってる事に一応の言及。6弦と1弦はまったく同じ音が並んでます。1弦の5フレットが「A」なら、6弦5フレットは2オクターブ下の「A」。スケール・パターンも1弦と6弦は必ず同じです。